

3 1 期生 卒業式

3月1日（金）に、31期生277名が、たくましく成長し、それぞれの思い出を胸に本校を巣立って行きました。

振り返ると、1年生では入学早々、宿泊研修がありました。まず班活動やオリエンテーリングを通じてお互いに理解を深め合い、また高校生活で大切なこと（時間を守る。挨拶をきちんとする。勉強の仕方を身につける。）を学び、良い高校生活のスタートがきれたと思っています。平成30年度からは宿泊研修を実施せず、校内で親睦を深めています。

2年生では、6月に北海道方面と東京方面の2カ所に分かれて、みんなが楽しみにしていた修学旅行がありました。各方面で普段では体験できないような場所、施設もスケジュールに組み込み、貴重な体験を通じて視野が広がり、将来のことを考えるきっかけにもなったのではないのでしょうか。また学校行事の中心的役割を果たすようになり、部活動も精一杯頑張っていた様子を思い出します。

いよいよ3年生になると、それぞれの進路実現に向けて本格的に受験勉強が始まりました。毎月の校外模試を受け、自分の学力を確認し、早い人は夏頃にはAO入試、そして推薦入試、年をあけて1月のセンター試験、一般試験と大変な1年間であったと思います。

最後に、卒業式で理数系の鷲見さんが31期生の代表として、答辞を読んでもくれました。3年間の様々な思い出を感情込めて、そしてお世話になった人々への感謝の気持ちも伝えてくれて、思わず涙が出ました。式の最後、退場していく姿を見て、それぞれの充実した表情が印象的でした。

卒業後しばらくの間は、寂しい気持ちがなかなか抜けませんでしたが、31期生からもらった大きな力をバネに、私たち教員も次に出会う生徒のために、また頑張ろうと思います。



お問い合わせ・ご相談は・・・ 岡山県立総社南高等学校までお気軽にどうぞ
〒719-1132 総社市三輪 626-1 TEL (0866)93-6811 FAX (0866)93-6855
ホームページ <http://www.sojam.okayama-c.ed.jp/>



みなみニュース
第1号（令和元年5月7日）
岡山県立総社南高等学校

国公立大学合格者50名！！

国立大学

入試年度	31年度
大学名	
大阪教育大	1
鳥取大	1
島根大	3
岡山大	12
広島大	1
徳島大	1
香川大	5
高知大	1
琉球大	1
国立大合計	26

注：数字は浪人(2)を含む

公立大学

入試年度	31年度
大学名	
横浜市立大	1
金沢美術工芸大	2
兵庫県立大	1
神戸市外大	1
鳥取環境大	1
岡山県立大	8
新見公立大	1
尾道市立大	1
福山市立大	2
県立広島大	1
広島市立大	3
北九州市立大	2
公立大合計	24

入試年度	31年度
国立合格者数	26
公立合格者数	24
国公立合格者数	50

私立大学

入試年度	31年度
大学名	
和洋女子大	1
創価大	1
専修大	1
多摩美大	2
帝京大	2
日本大	1
青山学院大	2
亜細亜大	1
駒澤大	4
武蔵野美大	2
順天堂大	1
東洋大	1
明治学院大	1
金沢工大	1
静岡理工科大	1
京都産業大	3
京都女子大	1
京都造形芸大	2
同志社大	1
立命館大	2
花園大	1
大阪芸大	2
大阪工大	3
大阪経済法科大	3
大阪国際大	1
大阪樟蔭女子大	1
大阪電気通信大	1
大阪大谷大	1
関西大	3
関西外大	3

入試年度	31年度
大学名	
近畿大	5
桃山学院大	2
関西学院大	1
甲南大	2
神戸学院大	1
神戸女学院大	2
関西福祉大	1
関西福祉科学大	3
流通科学大	1
天理大	1
岡山商大	1
岡山理大	45
川崎医療福祉大	44
山陽学園大	4
中国学園大	4
吉備国際大	5
倉敷芸術科学大	5
くらしき作陽大	9
就実大	27
清心女大	19
美作大	1
環太平洋大	6
福山大	1
広島経済大	3
四国大	1
松山大	5
崇城大	1
福岡大	1
私立合計	243

注：数字は浪人(4)を含む



普段の高校での学習活動だけでなく、南翔祭・球技大会・修学旅行・クラス活動・部活動・社会貢献活動等にも前向きに取り組み、積極的に自己の進路実現に頑張った成果が出ました。

～卒業生からのメッセージ～

第31期生から在校生に向けての熱いメッセージの紹介です。受験勉強はとても大変ですが、大学を目指す受験生が全て通る道です。総社南高等学校では一人ひとりの努力を支えるべく、生徒・教職員が一丸となって頑張っています。推薦入試やAO入試で合格した人、3月まで国公立大学を目指して頑張った人、いろいろな人たちが自分を信じてひた向きに努力することによって、希望の大学に合格していきました。

武本 迅 公立鳥取環境大学 経営学部 経営学科（真備中学校出身）

「受験は団体戦」とよく言いますが、その通りだと思いました。自分は友達と一緒に勉強するほうが集中できたので、一緒に勉強していました。その友達と一緒に勉強して、勉強がはかどったし、分からないところを教え合っていました。また、友達と点数を競い合うことで、やる気が上がったり、点数アップにもつながったりしました。受験勉強は、つらいこともありましたが、友達と一緒に頑張ることで乗り越えられたと思います。共に頑張れる友達がいて本当に良かったと思います。

高校三年生の一年はあっという間に過ぎてしまします。後から後悔しないように、受験勉強は早めに始めたほうがいいです。一日一日を大切にして、自分の進路を実現させてください。

林 萌衣 尾道市立大学 芸術文化学部 美術学科（倉敷第一中学校出身）

2年生の冬の時点で志望校を決め、入試は尾道市立大学一本で挑みました。センター試験直後に本格的に実技対策を始め、石膏デッサンと着彩写生を1週間ずつ交互に行いました。対策開始前には志望校の過去問をしっかりと調べ、先輩方の受験報告書を隅々まで読むことが大切で、とても役立つはずです。画塾については、私は3年生の4月から通い始めましたが、一般入試対策はほぼ学校で行っていました。なぜなら画塾より学校のほうがモチーフも多く、のびのびと描ける環境だったからです。

今、画塾に通うか迷っているという方は、まず長期休暇に行われる講習などに参加してみ、自分に合っているのかどうかを見極めることをおすすめします。実技はとにかく数です。描いて、描いて、描きまくりましょう！

古宮 陸人 横浜市立大学 国際商学部 国際商学科（総社東中学校出身）

自分の行きたい大学に行けるかは、結局どれだけ勉強したかだと私は感じました。結果的に、第一志望の公立大学に合格することができましたが、一般で受けた私立校は全て不合格になってしまいました。悔しかったけれど、不合格だったことに納得もしていました。というのも、センター試験に力を入れていた分、終わった後の2、3日は気持ちが緩んでしまっていたからです。選択肢形式とはいえ、センターと私立の一般では比べ物にならないくらい、難易度が違います。この反省を踏まえて、私立大学受験後は、第1志望の公立大学の前期試験まで、しっかりと集中して勉強に取り組みました。適当に大学を決めればすぐに受験を終えることができますが、その後の人生で後悔が残っていくと思います。だから、皆さんには第1志望の大学を目指して本気で勉強に取り組んでほしいです。先の人生で役に立つと確信しています。

森下 恵理 岡山大学 工学部 情報系学科（総社西中学校出身）

私は数学に不安があったので数学を重点的に勉強しました。まず教科書全ての例題を何も見ずに解き、分からなかった例題は解けるようになるまで何度も復習しました。放課後は先生が作ってくださったプリントを解き、ホワイトボードを使って解き方を伝える練習をしました。人によって受験勉強の仕方は異なると思います。しかし、オープンキャンパスなどの大学の行事に積極的に参加すること、早くから入試について調べて準備すること、そして、先生を頼りアドバイスを頂くことは誰にとっても重要なことだと思います。推薦入試は誰もが受けられる訳ではありません。普段の授業から真面目に取り組むことが自分の進路に繋がります。

河合 葵奈 神戸市外国語大学 外国語学部 英米学科（矢掛中学校出身）

部活動に入っていたこともあり本格的に受験勉強を始めたのは3年生の7月中旬からでした。得意な科目はいきなり赤本を解くことから始めて解説をしっかりと読み込むという勉強をしていました。苦手な暗記科目については、まずこれならずっと使えるという参考書を1冊決め、それを1周して基礎的なことを頭に入れて今まで分かっていたところを改めて整理してから赤本や問題集に取りかかりました。

もちろん1周しただけでは確実に覚えることはできないので、過去問を解いて間違えたら参考書の該当ページにチェックをつけるとともに、それと並行して2周目、3周目とその参考書を読むことを繰り返しました。

4月8日 34期生240名が入学！

前日の降雨で心配された満開の桜。ほとんど散ることなく、最高の状態で入学を迎える新入生の前途を祝してくれました。入学式では新入生宣誓、また対面式では新入生代表挨拶をそれぞれが初々しくも堂々で行ってくれました。

翌日の火曜日から新入生ガイダンスが始まり、高校生活の本格始動です。高校生活を送っていくうえでのルールやマナー、ワンポイントアドバイスなどを聞いたり、実際に授業の受け方を体験したりして学習面の心得を学びました。特に盛り上がったのは、新企画のクラス対抗綱引き大会＋校歌練習です。出会ってまだ2日しか経っていないのに、どのクラスも雰囲気よく一致団結して頑張りました。感心したのは、他のクラスの活躍に対しても拍手が出たこと。素直に対戦相手をたたえる姿勢、いやむしろ「34期生全員が大切な仲間」という感覚で夢中になって取り組んでいる姿に感動しました。

最後は全員で校歌を熱唱し、母校愛を育みました。

